

須加院川 ありがとう			須加院川の会 第 076号
連絡先事務局	〒679-2132 姫路市香寺町須加院470-1	電話とファクス	発行日 H23. 7. 15
メー ル	blue_sky@gaia.eonet.ne.jp	079-265-3631	発 行 事務局
ホームページ	http://www.eonet.ne.jp/~sukain/index.html		編集者 上月勝好

H23/07～09 月の予定

須加院川の会の活動にはだれでもいつでも出入りが自由、お気軽に下記日時にお越しください。

回	月 日	時 間	集合場所	中止・決行は集合時刻に集合場所で決定します。
212	7月31日 (日)	am 8:00 ～11:30	・増田屋橋	・河川敷花壇の手入れとゴミ拾い及び周りの刈取 ・南小よこ⇒増田屋橋間の刈取とゴミ拾い
213	8月21日 (日)	am 8:00 ～11:30	・増田屋橋	・河川敷花壇の手入れとゴミ拾い及び周りの刈取 ・増田屋橋⇒荒内間の刈取
214	9月4日 (日)	am 8:00 ～11:30	・増田屋橋	・河川敷花壇の手入れとゴミ拾い及び周りの刈取 ・荒内⇒新井堰間の刈取とゴミ拾い

戻って来たホタル ありがとう！

生物の多様性と生態系の保全という言葉が最近よく聞きます。私が属する須加院川の会は、この事に取り組み成熟期に入ったのではないのでしょうか。と言いますのは、会は活動を始めて丸10年目を迎えます。この活動を支えた多くの人々、特に地元須加院の人達と会員の努力の結晶は、川のゴミ拾いと拾う前作業の草刈をコツコツと諦める事なく続けて来たことです。川が綺麗になったのは、このボランティア活動が功を奏した賜物と言えるのではないのでしょうか。

5年前、会の有志より『須加院川のどこからもホタルを飛ばそう』という提案が出され、先ずは自らの手で、と実践を開始。次の年に校区の子供会や香呂南小と飼育・放流をコラボで始めました。初めは試行錯誤の連続、教えを乞いにホタルの先進地・西脇市中畑地区を訪れ大変お世話になり、今では情報を共有するまでになりました。そんな努力を重ねながら本格的に種ポタルの採取から幼虫飼育そして母なる須加院川への放流を積み重ねて来ました。



傘寿を迎え元気な内海正之氏

自然界の生き物を飼育し放流する事には『とに角自然のままだが良い』として、生態系の保全に人の手が加わることを嫌がる人々がいます。しかし人が住み暮らすようになった所は多

少の差はあれ、人の都合で手が加わり元々の自然が残っている所などありません。人が住む前に戻すからと言って『人よっ、ここから退場！』と言われても困ります。片方を優先すればもう一方が立ち難い。何とか共存の道がないかと絶滅回避への試行錯誤が世界中で進展中です。捕鯨や農業に於ける農薬の研究等々。その一つがホタルの幼虫飼育や放流ではないのでしょうか。

人間化された自然、言換えれば多くの命を頂戴し生かされて来た人類が、一つの生態系の絶滅が及ぼす人類存続への影響度をどのように考え対処するかが論点の核なのでは。既に絶滅した種の影響で幾つかの生態系が絶滅の危機に瀕しているとの警告もあり人への影響も近未来には形が見えて来るかも知れません。子々孫々までも我が家系が続くように、と孫子らに財を遺そうと額に汗する人は多い。だとすれば安心できる未来づくりのために、生態系の保全に血

道を挙げ関心を持って頂かねばなりません。

話が逸れましたが様々な努力の結果、驚くべきことが起きました。須加院川のどこからもホタルが飛んだのです。市川との合流域から谷山集落まで数の多い少いや盛期のズレはありますが飛びが川一本に繋がる一大スペクタクルというかドラマチックスペクタクルと言うか大飛翔が実現しました。地元古老によれば『昔はこれ位の蛍は飛んでいた』との事、実に感無量です。

縁あって須加院姫ヶ丘に居を定めて40年、今年七月末には傘寿・80才を迎えます。個人的に節目の年が、所属する会は設立10年目、自らの興味がライフワークに昇華したホタルの飼育と放流活動が5年目と、多くの節目と事象が重なり何か因縁めいたものを感じ、しみじみと須加院に居を構えた喜びを噛みしめています。密かに胸に抱く＜私のユートピア構想＞に、須加院川一帯をビオトープと捉え、自然の大ビオトープにしたい……と。その一例に“須加院川の中をいっぱいホタルが飛ぶ”そんな理想郷にしたい、と念願していました。それがほぼ現実となりこんなに嬉しいことはありません。

更には年を重ねるにつれ密かに願う家族との重なる触合い。仕事の関係から遠くで暮らす息子や孫、また隣町へ嫁いだ娘や孫らとの出会いは大学や社会人へと成長する程に、盆正月くらいに減っていましたがホタルのシーズンにも寄り付いてくれるようになり嬉しい限り。同様のご世帯が姫ヶ丘地区に数多くあることを妻やアチコチからも伝え聞き、改めてホタルの持つ力の凄さと飛翔域拡張に直接関われる喜びを実感、併せて感謝しています。

ところで、ホタル研究の権威者である遊磨

正秀氏（理学博士＜京都大学＞、龍谷大学理工学部環境ソリューション工学科教授、全国ホタル研究会理事）は、ホタルの生態系の保全特に移

殖について①他河川の種ポタル及びカワニナ等は絶対に導入しないこと②幼虫の飼育と放流事業は原則としてボランティア活動で行うこと、この2つが生態系を崩さない原則と指摘されている。

これからも私は次世代を担う子供達とご家族の、更には川の会との縁を深めるために水が取持つ絆づくりを主体に前進して参ります。種ポタルとりに始まる幼虫の

簡易飼育と長期飼育そして放流への一連の活動に生き甲斐を憶えています。今年も簡易飼育箱での幼虫を、7/3（日）に校区の子供会と、翌7/4（月）に南小四年生と放流しました。子供達が『来年も戻って来てネ』と大きな声で呼掛け放流、潤む目にソッと『来年も戻って来てネ』と祈り唱和しました。（姫ヶ丘・内海正之記）

法人会員の紹介

この度、~~株~~アポロテック・代表取締役上月孝一様（香寺町須加院327-1）より法人会員（年会費三万円）の申出がありました。慣例により当会報に次号より一年間広告を掲載します。

姫路ソロプチミストから3万円を頂く

去る5月20日に、姫路ソロプチミストからクラブ賞として三万円を頂いた。実業界や専門職で活躍する女性で組織する世界最大の奉仕団体で、その姫路支部が本部へ当会を環境貢献賞の候補に推挙されたが惜しくも選に漏れたとのこと、姫路のクラブ賞となりました。